

四半期報告書

(第60期第1四半期)

自 平成25年4月1日

至 平成25年6月30日

株式会社 **ジオディノス**

札幌市中央区南3条西1丁目8番地

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
2 その他	12
第二部 提出会社の保証会社等の情報	13

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成25年8月13日
【四半期会計期間】	第60期第1四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 光安 浩二
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第1四半期 累計期間	第60期 第1四半期 累計期間	第59期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高（千円）	1,961,126	1,989,222	8,370,918
経常利益又は経常損失（△）（千円）	△76,402	△11,446	62,499
当期純利益又は四半期純損失（△） （千円）	△84,561	△35,889	59,729
持分法を適用した場合の投資利益 （千円）	—	—	—
資本金（千円）	948,775	948,775	948,775
発行済株式総数（株）	4,303,500	4,303,500	4,303,500
純資産額（千円）	2,245,568	2,338,786	2,376,731
総資産額（千円）	10,457,325	10,632,809	10,417,135
1株当たり当期純利益金額又は1株当 たり四半期純損失金額（△）（円）	△19.86	△8.44	14.03
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	—	—	1.00
自己資本比率（％）	21.4	21.9	22.8

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「持分法を適用した場合の投資利益」は、関連会社がないため記載しておりません。
4. 第59期及び第60期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
5. 第59期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出の持ち直しや各種政策の効果などを背景に、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、緩やかな景気回復がみられる一方で、海外景気の下振れに注意が必要な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社の経営の基本方針である『人々に《楽しむ》を提供し、明日の幸せをお届けします。』の経営理念のもと、一層の経営の効率化を図り、収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第1四半期累計期間の売上高は19億89百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は25百万円（前年同四半期は営業損失36百万円）、経常損失は11百万円（前年同四半期は経常損失76百万円）、四半期純損失は35百万円（前年同四半期は四半期純損失84百万円）となりました。

当第1四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	766,399	2.5
フィットネス運営部 (千円)	601,075	3.4
ボウリング運営部 (千円)	290,073	0.3
カフェ運営部 (千円)	127,172	△4.7
ディノス施設運営部 (千円)	204,500	△2.3
(シネマ) (千円)	(149,771)	(△4.4)
(その他) (千円)	(54,728)	(4.1)
合計 (千円)	1,989,222	1.4

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当第1四半期会計期間の組織変更に伴い、カフェ運営部の1店舗をボウリング運営部に変更しております。

前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。

3. ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

4. ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

(GAME運営部)

GAME運営部につきましては、「ゲオパークじょいくるーず店」の閉店（平成24年11月）等がありましたが、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパークの新規出店並びにUFOキャッチャーに代表されるプライズ機の景品を取れやすくすること（原価率重視からペイアウト率重視へ転換）やメダルゲームの貸出枚数を大幅に増加させる（時間消費型レジャーへの意識転換）等の施策が効果を上げ始めたことなどにより、売上高は7億66百万円（前年同四半期比2.5%増）となりました。

(フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、健康意識の高まりにより、利用者及び会員数が増えたこと、加圧トレーニング導入効果などで会費以外の収入が増えたこと、女性専用の「ホットヨガスタジオ ハーティノルベサ（札幌市）」がオープン（平成25年1月）し、店舗数が増えたことなどにより、売上高は6億1百万円（同3.4%増）となりました。

(ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、健康増進レジャーとして、生涯スポーツとしての魅力普及強化により、ボウリング教室等をシニア層向けに開催したり、またプロショップ「ベガ」（ボウリング用品専門店）を3店舗にオープンし、物販収入が増えたことなどにより、売上高は2億90百万円（同0.3%増）となりました。

(カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、割引クーポンの発行やシニア割引、また飲食のテイクアウト等施策を実施しましたが、業界全体の規制強化の影響を受け、その回復が遅れていること、一部地域における競合店の出店による影響などにより、売上高は1億27百万円(同4.7%減)となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、「その他」において、前事業年度に1店舗を飲食店として他社への賃貸物件を増やしたことにより(平成24年12月)、不動産賃貸収入が増加しましたが、「シネマ」において、前年ほどのメガヒット作品(「テルマエ・ロマエ」等)に恵まれなかったことなどにより、売上高は2億4百万円(同2.3%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期会計期間末の総資産は106億32百万円となり、前事業年度末に比べ2億15百万円増加しました。これは主に、建物等有形固定資産の減少(前期末比1億50百万円減)などがありましたが、現金及び預金等流動資産の増加(同3億67百万円増)があったことによるものであります。

負債については、82億94百万円となり、前事業年度末に比べ2億53百万円増加しました。これは主に、買掛金等流動負債の減少(同39百万円減)がありましたが、社債等固定負債の増加(同2億92百万円増)があったことによるものであります。

純資産については、23億38百万円となり、前事業年度末に比べ37百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少(同40百万円減)があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,303,500	4,303,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	4,303,500	4,303,500	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	4,303,500	—	948,775	—	1,128,995

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 45,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 4,257,900	42,579	—
単元未満株式	普通株式 600	—	—
発行済株式総数	4,303,500	—	—
総株主の議決権	—	42,579	—

②【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社ゲオディノス	札幌市中央区南3条西1丁目8番地	45,000	—	45,000	1.05
計	—	45,000	—	45,000	1.05

（注） 上記は、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしておりますが、平成25年6月30日現在、自己株式の所有株式数は59,494株となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	799,205	1,210,384
売掛金	150,949	121,609
商品及び製品	28,003	32,385
原材料及び貯蔵品	79,703	83,943
その他	140,765	118,065
貸倒引当金	△1,010	△960
流動資産合計	1,197,616	1,565,428
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,818,124	3,752,914
アミューズメント機器（純額）	411,879	378,386
土地	2,699,860	2,699,860
リース資産（純額）	553,177	505,306
その他（純額）	205,333	201,124
有形固定資産合計	7,688,376	7,537,592
無形固定資産		
投資その他の資産	26,374	24,415
差入保証金	1,187,285	1,180,276
その他	289,368	271,534
投資その他の資産合計	1,476,654	1,451,810
固定資産合計	9,191,406	9,013,818
繰延資産	28,113	53,561
資産合計	10,417,135	10,632,809
負債の部		
流動負債		
買掛金	176,930	131,527
短期借入金	130,000	200,000
1年内償還予定の社債	330,000	462,800
1年内返済予定の長期借入金	1,207,328	1,136,952
1年内返済予定の長期未払金	359,896	336,826
未払法人税等	35,631	11,719
賞与引当金	31,229	19,452
ポイント引当金	7,600	7,600
その他	922,203	854,711
流動負債合計	3,200,818	3,161,589
固定負債		
社債	1,032,000	1,725,200
長期借入金	2,459,515	2,178,121
長期未払金	668,573	577,376
資産除去債務	142,162	142,928
その他	537,334	508,807
固定負債合計	4,839,585	5,132,433
負債合計	8,040,404	8,294,022

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	313,651	273,503
自己株式	△20,987	△26,805
株主資本合計	2,370,434	2,324,469
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	989	9,010
評価・換算差額等合計	989	9,010
新株予約権	5,307	5,307
純資産合計	2,376,731	2,338,786
負債純資産合計	10,417,135	10,632,809

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,961,126	1,989,222
売上原価	402,095	425,553
売上総利益	1,559,031	1,563,668
販売費及び一般管理費		
給料	403,533	388,270
賞与引当金繰入額	19,556	19,452
退職給付費用	5,262	5,439
水道光熱費	163,189	157,635
租税公課	18,365	21,353
地代家賃	303,127	299,774
減価償却費	193,353	189,103
修繕維持費	99,810	100,475
その他	389,307	356,619
販売費及び一般管理費合計	1,595,506	1,538,124
営業利益又は営業損失(△)	△36,475	25,544
営業外収益		
受取利息	884	785
受取配当金	1,022	711
アミューズメント機器売却益	—	1,504
その他	1,208	1,336
営業外収益合計	3,114	4,339
営業外費用		
支払利息	31,685	27,774
アミューズメント機器処分損	1,848	3,587
その他	9,507	9,968
営業外費用合計	43,041	41,331
経常損失(△)	△76,402	△11,446
特別利益		
固定資産売却益	12	—
投資有価証券売却益	—	1,229
特別利益合計	12	1,229
特別損失		
固定資産除却損	984	26
特別損失合計	984	26
税引前四半期純損失(△)	△77,375	△10,243
法人税、住民税及び事業税	8,066	7,664
法人税等調整額	△880	17,981
法人税等合計	7,185	25,645
四半期純損失(△)	△84,561	△35,889

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	196,858千円	192,614千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間末後となるもの該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月19日 定時株主総会	普通株式	4,258	1.00	平成25年3月31日	平成25年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間末後となるもの該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上 額(注)2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	747,897	581,234	289,334	133,402	209,256	1,961,126	—	1,961,126
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	747,897	581,234	289,334	133,402	209,256	1,961,126	—	1,961,126
セグメント利益又は 損失(△)	44,146	49,489	10,338	2,894	△39,582	67,286	△103,761	△36,475

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△103,761千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	766,399	601,075	290,073	127,172	204,500	1,989,222	—	1,989,222
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	766,399	601,075	290,073	127,172	204,500	1,989,222	—	1,989,222
セグメント利益又は 損失(△)	46,893	68,475	8,642	117	206	124,335	△98,790	25,544

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△98,790千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期会計期間から、収益力強化を目的とした会社組織の変更に伴い、「カフェ運営部」に含めていた1店舗を「ボウリング運営部」に変更しております。

なお、前第1四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	△19円86銭	△8円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	△84,561	△35,889
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	△84,561	△35,889
普通株式の期中平均株式数(株)	4,258,406	4,250,810

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月9日

株式会社ゲオディノス

取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 瀬戸口 明慶 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゲオディノスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第60期事業年度の第1四半期会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゲオディノスの平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。